

稲刈り跡の早期排水対策の徹底を！ ～麦は排水対策が最重要～

1. 麦は早期排水対策で収量・品質UP！

土壌水分を低くすることで碎土率（土塊径 20mm 以下の割合）が向上し、①播種精度の向上による出芽率の向上、②除草剤の効果安定、③麦の生育改善による収量・品質向上などが期待できます。

特に播種時の土壌水分が高いと出芽の不安定や生育の不揃い、土壌処理除草剤の「処理層」の不形成などを引き起こし、湿害や雑草害を受けやすくなり、収量や品質に大きく影響するため、排水対策を徹底しましょう。

2. 溝掘いをいち早く行い水田を乾かしましょう！

今年は8月27日以降、天候不順が続いておりますが、稲刈り後は条件の良いときを見計らい、可能な限り10月上旬までをめどに排水溝（明渠）を設置しましょう。

ほ場表面の滞水が目立つ場合は、まず額縁明渠を設置し、排水してください。排水後、速やかに明渠を完成させましょう。



オーガ式溝堀機等で
しっかりした排水溝を作る

3. 排水溝(明渠)は水尻まで流れるように！

溝の繋ぎ目を連結する、水尻に向かって深くするなど、水口から水尻までスムーズに排水されるように設置しましょう。



排水溝は尻水戸にしっかり繋ぐ



溝の泥はしっかりさらうこと

4. 土壌の酸度矯正も忘れずに！

麦類、特に大麦は酸性に弱い作物です。土壌pH6.5 を目標に、アルカリ資材を散布し、酸度矯正をしましょう。苦土石灰の場合、100kg/10a が目安です。